医師会長エッセイ

ポラリスを仰ぐ北の大地から

訪問診療と新型コロナウイルス

美幌医師会 会長　田中（たなか）　克彦（かつひこ）

当院は、父の代から訪問診療も行っていましたので、その間に、私も診療するようになり、訪問診療を続けて計40年余りになります。その後、父が引退し、細々と行っていた訪問診療も、2007年に当院が在宅療養支援診療所となったのを契機に、グループホームや他の介護施設などへの訪問も積極的に行うようになりました。

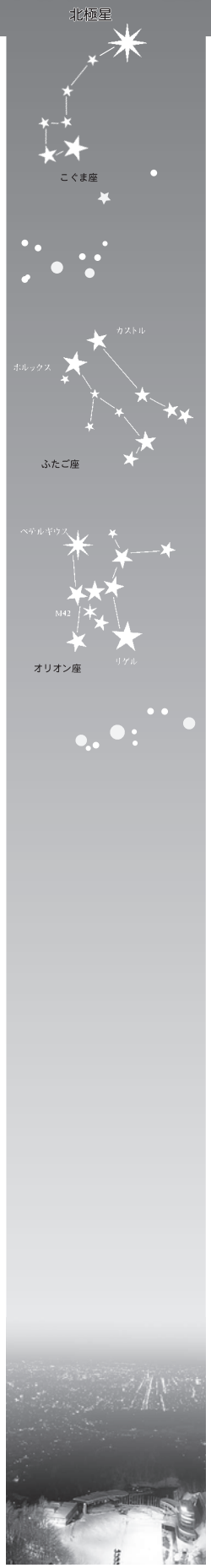
2020年からは、新型コロナウイルス感染症の影響で、病院では、入院患者の面会が困難となりました。入院家族の面会が困難になってからは、自宅での療養を希望する患者や家族が増加し、訪問診療の需要は益々増えています。実際、コロナ以前の当院の在宅の看取りの数は年間20名から30名程度で推移していましたが、この３年間は、在宅及び施設での看取りの数は40名～60名とほぼ倍増しています。

遅々として進んでいなかった当地域の在宅医療を、何とか発展させようと、私は、医師会長に就任した７年前から、訪問診療の協力を会員各位に訴えていましたが、残念ながら期待する反応は返ってこない状況でした。

しかし、皮肉なことに新型コロナウイルスの影響で、訪問診療利用者数や看取りの数は増加し、また、以前より訪問看護ステーションや介護施設との連携もスムーズになっています。うわべ上は、当地域の在宅医療体制は一歩前進しているように思えます。

けれども、まだ、最大の課題が残っています。訪問診療を行う医療機関の数が一向に増えないことです。決して若くない私は、将来の当地域の在宅医療環境に少々焦りを感じ始めていました。

そんな中、先日、ある医療機関の院長から、今回、介護施設内での新型コロナウイルスのクラスターをきっかけに、施設内の看取りを経験するようになり、施設や在宅の看取りを、今後、検討したいと相談を受けました。私にとって、この話は、一筋の光明です。コロナ禍というピンチをこの地域の在宅医療体制発展のチャンスに変えるべく、諦めることなく、会員に訪問診療参加協力をこれからも粘り強くお願いする意欲が再び湧いてきました。



大樹町晩成地区のお話

十勝医師会 会長　大庭（おおば）　滋理（しげり）

毎年元旦には小生の住む大樹町の晩成温泉は早朝６時より営業を開始します。

眼前に広がる太平洋から昇る初日の出を、浴場から直接拝めるとあって今年も150人余の人がまだ暗いうちから来館しました。

泉質が世界的にも珍しいヨード泉でまさにイソジン色の湯です。これ程湯冷めしないでいつまでもポカポカの湯は他に類をみません。

入浴料は大人500円でフェイスタオルとバスタオルが付いています。温泉内にはリンスインシャンプーとボディソープが設置してあるので手ぶらで行くことができます。

食堂では大樹町のＢ級グルメ「チーズサーモン丼」がいただけます。

大樹町の晩成地区にはもうひとつ注目すべき会社があります。堀江貴文氏がFunderの「インターステラテクノロジズ」というロケット開発の会社です。10年前に事業を開始したときには社員14人程でした。大樹町としては30年程前から航空宇宙実験場の招致を進めてきましたが、ロケット射場建設を目指すこの時に地元住民の盛り上がりがないと道や国は動かないとの指摘があり、大樹IST講演会を発足させ小生が会長を務めております。

最近は新型コロナの影響もあり打ち上げは公開されておりませんが、令和元年５月に観測ロケットMOMO ３号を国内の民間企業単独で初めて宇宙空間に到達させ、令和３年７月には７号、６号をたて続けに打ち上げを成功させました。コロナ前の打ち上げには2,000人超の観客が訪れています。

今後は全長25mの超小型人工衛星打ち上げロケットZEROと小型衛星を多数軌道に乗せる更に大きなロケットDECAを開発中です。社員も今では100人を超え、小生が産業医を務めております。

太平洋に面して晩成にあるこの二つの会社は今後の大樹町の繁栄を担っているといえましょう。かたや町民の憩いの場を提供する晩成温泉、かたや日本から世界に羽ばたくIT企業。統一地方選の今年、さらなる町政の発展が期待されます。私は町長後援会の幹事長を務めております。これが落ちです。